

學

伴東小学校 校長室だより

【伴東プライド】を中核に、
「やる気いっぱい 笑顔いっぱい」の学校



6月も最後の週を迎えましたが今年はまだ「梅雨入り」しておらず、それはそれで何となく気持ちが落ち着かない感じがしています。昨今の頃は毎日スッキリしない日が続く、外遊びができない子ども達は体力をもちあまし雨雲のかかった空を見上げていました。梅雨入りが遅い年は梅雨に入ったとたん大雨が続き、洪水や土砂崩れなどの自然災害を心配しなければならないことが多いようです。

昨年の7月の初めには「西日本豪雨災害」が発生し、広島県内各地に被害がもたらされ、広島市内でも多くの場所が大変な状況になりました。同じようなことが二度と起こらないことを願うばかりですが、自然災害はいつ起こるか分かりません。18日の夜に発生した新潟・山形地震も就寝時間と重なり、大きな揺れを肌で感じたみなさんは驚かれたことでしょう。優しく梅雨入りして、気付かないうちに梅雨明けしていた・・・そんなことは無理でしょうか？



子どもたちの登下校につきましては、ご協力ありがとうございます。先日は7日（金）に開催された『子どもの安全を守る連絡協議会』の話し合いの中で出された状況を受けて、臨時の登校班会議を行いました。指導内容につきましては別紙配布いたしましたプリントに記載の通りです。地域の見守りの皆さま方からは、「一定の時間に集団で通過するので見守りがやりやすくなった。」「班毎に一列で並んでいるので、このまま続けてみたらどうか。」「あいさつはもう少し頑張ってもらいたい。」「等のご意見もいただきました。課題や問題が生じた場合は早めに対応と指導を行いたいと思います。引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

5月7日(火)、6年生の『被爆体験を聴く会』に引き続き、今回は5年生が『平和学習講座』を受けました。8月6日に繋いでいきます！

6月21日(金)の5・6校時、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を中心に被爆体験記朗読ボランティアをされている網本えり子さんを講師に迎え、5年生が『平和学習講座』を受けました。74年前の8月6日に私たちの住む広島でどのようなことが起こったのか、その後の広島の様子や人々の苦しみはどうであったか、そして、平和な世の中や世界を創るためにこれからの私たちにできることは何か？を考えるヒントをいただくお話でした。普段は朗読を中心に活動されていますが、今回はパワーポイントやDVDを使って分かりやすく、また流暢に話されるので子ども達はいつの間にかお話の世界に引き込



まれていました。1時間と少しの時間でしたが、たくさんのお話を学び考え、自分たちの役割についても思いを巡らす時間となりました。6年生が中心となって進める今年の8月6日の平和集会では、5年生も下学年のみんなに発信してくれるものと期待しています。



講座終了後、網本さんから「今までたくさんの学校に行きましたが、今日のように集中して話を聴いてもらったのは初めてです。とてもよく聴いてくれますね。」とお褒めの言葉をいただきました。学校では人の話を「聴く」ということを大切にしており、そのことでよい評価をいただいたことは何よりでした。今後も、「聞く→聴く→訊く」ことができる子ども達となるよう、指導を進めていきたいと改めて思いました。そして、網本さん、貴重な時間をありがとうございました。

ある会合で警察署生活安全課の警部補さんがおっしゃった言葉が・・・ 「保護者の方は子どもさんの様子を本当に知っておられるのでしょうか？」

子どもの安全確保にかかる会合に出席したとき、ある警察署の生活安全課の警部補さんが「保護者の方は、日頃の子どもの様子を本当に知っておられるのでしょうか？」と私に聞かれました。話し合いは安全確保の内容を終えて、情報交換的なものになっていたときのことでした。「子どもが、いつ、どこで、だれと、どんなことをして遊んでいるか」「人と出会ったとき、どのような言葉を使って話しているか、どのようにあいさつしたり返答したりしているか」・・・いろいろな場面を出して話されました。警部補さんは仕事上、子どもの補導や指導に当たられることが多く、場合によっては保護者に連絡し直接話しをして引き渡されることもあるとのことでした。そして、先ほどの言葉です。

保護者に来てもらい顔を合わせて話しをすると、ほとんどの場合「えっ、そんなことはありません。」とか「うちの子はそんなことはないはずです・・・。」と返答され、日頃子どもから聞く話は知っておられるが実際の子どもの様子は掴めていないご家庭もあるとのことでした。その場面を機会に子どもへしっかりと目線を送るようになれる保護者と、軽く受け止められその場限りに流されてしまう家庭との差が、後々の子どもの成長に大きく現れてくると続けられました。「些細なことでも人に迷惑をかけたり、絶対にやってはいけないことはしっかりと反省させ、ことの重大性を認識させる必要があります。そこをいい加減にやり過ごすことで、同じことを繰り返すようになります。悪いことへの罪悪感が薄れて、判断力がだんだんと鈍っていくんです。気がついたときには取り返しのつかない大事を犯してしまっていた・・・最近増えているんです。」と言われました。

機会ある毎に、「子どもであっても、絶対にやってはいけないこと、許してもらえないことがある！」と話しています。学級では先生方から何度も伝えてもらっています。①投石（石を投げること）②置き石（線路に石を置くこと）③放火（火遊び）④万引き（お金を払わずにものをとること）⑤人やものを傷つけること⑥人をいじめたり仲間外れにしたりすること・・・。



ご家庭で子どもさんがいろいろなことを話されるとと思います。しっかり耳を傾けて聴いてあげてください。また、持ち物や言葉遣い、しぐさや表情など気に留めてみてください。「手は離しても、目は離すな。」ということを改めて強く感じています。何か気になることがありましたら、遠慮なくご連絡ください。

